

大阪市をなくすな

写真は市政施行 80 周年を記念して刊行された『大阪市政 80 年の歩み』（1969 年）扉の写真である。かなり前に大阪の古本屋（たぶん道頓堀あたり）で手に入れたものだ。昔は古本屋巡りが趣味であったが、「蔵書の苦しみ」からできるだけ避けるようにしている。

写真は昨日のレポートでも紹介した中之島であるが、市役所は旧庁舎だ。これは 1921 年完成のもので、塔屋までの高さ約 56m と、当時は市内最高の高さを誇った。鉄筋 5 階建てで、中央にホールがあり、四方に玄関、正面玄関には 4 本の円柱が立ち、ルネッサンス風の塔は市の象徴だった。1982 年に新庁舎建設のため取り壊された。



信州松本から大阪に移り、「浪人生活」を経て大学院時代を過ごした時は、この旧庁舎にお世話になった。写真にもあるように、旧庁舎下に日本銀行大阪支店、上に中之島図書館、中央公会堂が見える。それぞれの建物に風格があり、歴史的な景観にも富んでいた。

「5・17 住民投票」の結果により大阪市はなくなり、このあたりは「大阪府北区」になるのだろうか。大阪市という大都市自治体がなくなることは、その歴史遺産を消滅させ、市民生活にも深刻な影響をもたらすであろう。そんな「思い」から、先週 22 日朝日新聞「声」に投稿した。こうしたテーマで辛口の「声」であり、掲載されないとは思いつつ投稿せずにはおられなかった。昨日には住民投票が告示され、今日まで連絡もないので、投稿した原稿を下記に掲載しておきたい。

「大阪都」住民投票 棄権は危険

「大阪都」構想をめぐる住民投票が 27 日に告示される。私は名古屋市民だが、他人事とは思えない。黙ってはおれない。まさに「どんでん返し」で住民投票が決まったが、その結果により、歴史ある大阪市という大都市が消えてしまう。これは大阪だけの問題ではない。

安倍政権は改憲の思惑から「大阪都」構想に理解を示すという。東京「都制」は戦争の時代に生まれた。いま集団的自衛権の行使容認など「戦争する国」に向けた準備が急ピッチで進む。大阪での攻防は日本の行方を左右しかねない。

朝日デジタルで本紙大阪本社版から情報を仕入れている。大阪市民の多くは住民投票について、よく分からないという声が多いようだ。でも大阪市という自治体がなくなり「特別区」になれば、住民生活にもきわめて大きな影響が及ぶであろう。

大阪市の皆さんにぜひお願いしたい。住民投票の内容をよく知って、まずは投票に行っほしい。今回ほど棄権は「危険」なことはない。ここで大阪市がなくなると決まれば、もう後戻りができないのだから。

(2015 年 4 月 28 日)